

ましん 麻疹(はしか)

「麻疹」と書いて「はしか」とも読みます。麻疹については、「子どもの軽い病気」という誤解がありますが、本当は大人もかかりうる怖い病気です。平成13年には全国で約28万人もの患者が発生し、21人が亡くなりました。同19年には若年者の間で流行し、大学が相次いで休講・閉鎖したのは記憶に新しいことと思います。

麻疹に感染すると、約十日間の潜伏期の後に発熱と感冒症状が始まり、遅れて全身に赤い発疹が出現します。高熱や発疹はやがて消えますが、3～4人に1人が中耳炎や肺炎を、500人に1人が麻疹脳炎を合併します。さらに、乳児では約5万人に1人が麻疹感染の数年後に、亜急性硬化性全脳炎という治療不能な病を発症します。

麻疹は怖い病気ですが、ワクチンにより予防が可能です。ワクチン接種の徹底により、南北アメリカ諸国や韓国ではすでに麻疹が排除されています。日本は平成24年までの麻疹排除を目標に掲げており、ワクチン接種率の向上が急務となっています。以前は麻疹単独のワクチンでしたが、平成18年からは麻疹風疹混合（MR）ワクチンの定期接種になりました。1歳になったら速やかに1期の接種を受け、お子さんを麻疹から守ってあげてください。予防効果を高めるため、小学校入学の1年前にも2期の接種を行います。また平成24年度までは中学1年生と高校3年生を対象に3期、4期の接種も行っています。麻疹を排除するためには、社会全体のワクチン接種率を95パーセント以上に維持することが必要です。自分の子ども、地域の子ども、そして自分自身を守るためにもMRワクチンの接種を忘れないようにしてください。

（このコラムは市立病院 病院総務課 電話（260）0111が担当しています。）